

希望し続ける—よい時もそうでない時も

2021年のメッセージ

人類が前進できるのは、激動と不確実性の時にあっても、計算なしに自らを捧げる多くの人々がいるためです。

この数か月間、多くの若者が将来に対する自らの不安を次のように私たちに分かち合ってくれました。——私たちに行く道を示すのはどのような希望か。——すべてがあまりに不安定なこの時に、私たちは何を信頼し、何により頼めばよいのか。そして、さらに深い問いです。——私が生きるに値する人生の目的とは何か。一方で、このような声が挙がるのも耳にするのです。私たちは幻滅に陥ることに屈せず、希望の徴（しるし）¹に心を向けなければならないと。

希望の徴（しるし）に心を留める

まさに感染症一色の状況で、私たちはいま、世界のあらゆる地域で不安定さが増大しているのを目の当たりにしています。政治において大胆な決断が求められていますが、私たちが皆で担うことができる連帯と社会的友愛も同じく不可欠です。いつでも他の人のために働ける、役に立ちたいという多くの人々があります。このような人々の優しさに触れて、私たちは、**互いに助け合うことが未来への道を拓くのだ**ということを思い出すのです。

そして、なんと多くの若者が**私たちの共通の家**である地球を救うために力を注いでいることか！新しい取組み（イニシアチブ）が至るところで生まれ続けています。気候変動の緊急事態ついて、すべての問いが明らかにされるまで待つことなく、これらの取組みによって、私たちは環境をもっと大切に生き方へすでに歩みを進めることができます²。信仰を持つ人々にとって、地球とは神が大事にするようにと私たちに託された贈り物です。

不正義の構造（時に過去から引き継がれてきたものである場合もあります。）に、人々はよりよく気がつくようになりました。そして残念ながら、すべての人にとっての善のために必ずしも権力が用いられているわけではありません。そのような権力の乱用を目の当たりにして、苛立ちや怒りを覚えるのは理解できます。私たちは、社会を分断している違いを乗り越えて、敢えて勇気をもって**正義と平和を創り出そう**としているでしょうか。

兄弟姉妹として生きる

そうです。現在の困難な現実のただなかで、なお私たちは希望を持つ理由を垣間見ることができます。そして、それは希望し得ない現実の中でさえ持ち続ける希望です。そのためには、自分とは違う選択をしてきた他の人々と協力する必要があります——他宗派のキリスト者と、他宗教を信じる人々と、そして不可知論者や無神論者と、そして連帯と分かち合うことに尽力する人々とも。

¹ 2021年のこのメッセージに応える方法として、青年の皆さんに、自分の出来事を具体的な例とともに紹介くださるよう呼びかけています（対象：15-35歳）。どのような新しい取組みや人々が自分にとって希望の徴となっているでしょうか。今後数か月に、寄せられた声は様々な形（テキスト、ビデオ、ポッドキャストなど）で紹介される予定です。solidarity@taize.frまでお寄せください（英語）。

² 気候変動に立ち向かい、また二酸化炭素排出を減らすため、変えられることを変えるよう、自分たちの慣習を問いなおすことはできないでしょうか。キリスト教コミュニティもこの取組みに参加しています。「Green Churches」のネットワークのような教派を超えたイニシアチブが世界の様々な国に存在します。

1989年にはすでにバーゼルで行われたヨーロッパ教会協議会はすべての人に呼びかけました。「できるかぎり環境に配慮した生活スタイルを取り入れよう」と。とりわけ、エネルギー消費量の削減、公共交通機関の利用、ゴミの削減を呼びかけるものでした。

テゼで、私たちもエコロジカルな移行に向けて取組みを続けています。何か助けになることがあれば、どのような提案も歓迎します

www.taize.fr/eco

私たちが兄弟姉妹として生きる時、私たちがもっとも困窮した人々と一緒にいる時、喜びが新たにされます。ホームレスの人々、高齢者、病気の人々または孤独な人々、困難な状況にある子どもたち、障がいを持つ人々、移民……。私たちだれもが生活の状況によって傷つくことがあります。そして、世界的な感染症の拡大によって人類の弱点が露呈しつつあります。

私たちはこれまで以上にお互いを必要としています。教皇フランシスコは、回勅「フラテリ・トゥッティ（邦題：兄弟である皆さん）」で、このことを「誰も一人で救われることはありません。」と力強く喚起しておられます。さらに教皇は、「普遍的なものに誠実に心を開こうとすることなく、他の場所で起こっていることから問われることなく、他の文化がもたらす豊かさを受け入れることなく、他の人々を直撃した悲劇に連帯し、心配することなく」（§32 および§146）、本当の自分自身（アイデンティティ）を見出すことはできないとも付け加えておられます。

個人同士の関係や人々の関係において、競争から協力へと変えるためにできることをすべてしましょう。地域の活動、全国の活動、国際的な活動を問わず、協力と連帯を推し進める組織や団体を支援しましょう。

信じること—現存に信頼する

テゼで、私たちは、信仰に留まろうとする若者たちが、新しい仕方で神を信じることについて深く黙想していることに気づきました。信じるとはどういうことか。そして、神が存在するなら、その神は、歴史の中で、私たちの生活の中で働いている神なのか。

こうした問いに直面するとき、神を私たちがこうだと思ふ型に押し込めようとしなないことが大切です。神は私たちの考えが及ぶよりも果てしなく大きいのです。私たちは、愛と真実を渴望する探求者です。それぞれの内なる巡礼の途上において、私たちは皆、自分の前の道しか見えないということがあります。しかし、「信頼の巡礼」であるからには、互いの確信だけでなく、模索や問いをも分かち合いながら、私たちは皆ともに歩んでいます。

ブラザー・ロジェはこう語りました。「信仰、それは、単純素朴な神への信頼。私たちの生涯を通して、いく度も千回もの波のように繰り返される信頼の営み。…たとえ、私たち一人ひとりのうちに疑いがあっても。」

信じるとは、何よりもまず、私たちの存在の深いところにあり、同時に宇宙全体にも宿っておられる現存、目には見えなくとも確かに生き生きとここにある存在に信頼することなのではありませんか。それは、自らを押し付けることはなく、呼吸のように、沈黙の中で、どのような瞬間でも新たに私たちが迎え入れることができる存在。私たちに疑いがあろうと関係なく、神がどのような方かほとんど理解していないと私たちが感じているときでさえ、いつでもそこに共にいてくださる思いやりのある存在。

新しい地平を識別する

思いやりのある存在。福音はこの神秘にどのような光明を投じているでしょうか。

イエスは最後の息を引き取るまで、この思いやりのある存在から生きる力を引き寄せ、つねにその存在に耳を傾けていました。イエスにとって、それは内なる光であり、神の息吹であり、聖霊のもたらす創造性でした。

十字架上で死に向かっていたとき、すべて意味がなかったと思われたとき、苦しみと圧倒的な孤独の深みから、イエスは見捨てられた気持ちを大声で叫びましたが、それでもその叫びは神に向けられた言葉でした。「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と。裏切られ、拷問され、死刑を宣告されたイエスは、もっとも深い闇に愛をもたらししました。そして、その愛は悪よりも強いことが示されました。マグダラのマリアが、次に使徒たちが、思いもしなかった、信じがたい報せを皆に伝えることとなりました。イエスは生きている、神の愛が憎しみと死に打ち勝ったということ。

この報せに心を打たれ、最初のキリスト者たちは圧倒され、復活の証人となりました。キリストはこれから神と共に生きられるということ。キリストは聖霊によって全世界に満ち、また同時にすべての人間の内にも宿っておられるのだと。キリストは貧しい人々と連帯し、彼らに正義をもたらしただということ。キリストは歴史と天地創造を完成させるものであること。私たちは死後、溢れる喜びのなかでイエスに迎えられるのだということ。

人間の暴力を超えたところ、環境災害や病気を超えたところに、新しい景色が開かれています。私たちはそれを識別することができますでしょうか。

見方を変える

キリストの復活によって現れたこの地平から、私たちの存在に光が射しこみます。何度も何度も、その光によって恐れは払われ、生きた水、いのちの水の泉が湧きあがります。そして賛美の喜びが湧き上がります。

このようにして、私たちはこのことを、神秘的な直観のようなものによって、ひそかに感じることができます。キリストは、その最期まで、すべての人々と全世界を神の愛のもとに結びつけ続けられます。そして、私たちをご自分の使命を共に担うパートナーとされます。

キリストは私たち皆をパートナーにされ、教会とされます。そのためには、すべての人を包む友情をいつでも広げられるよう備えなければいけません。キリストは私たちに敵さえも愛するように求められます。主の平和は対立する国々さえも和解させます³。

私たちのものの見方をキリストに変えていただくのです。キリストを通して、すべての人々の尊厳と創造の美しさがより明確に分かります。闇雲に信頼するというのではなく、希望はそれがキリストに根ざしているとき、何度も何度も湧き出るのであります。静謐な喜びが私たちを満たし、その喜びとともに、神がこの地上で私たちに委ねられている責任を引き受ける勇気が湧き上がります。

— — —

このメッセージを黙想なさる皆さん一人ひとりと、私は祈りを通して心を合わせています。



キリスト・イエス、あなたの善さと単純素朴さを讃えます。あなたの謙遜さを通して、あなたの生涯にわたって神の光が輝いていました。その光は今日私たちの心の中を照らしています。それは私たちの傷を癒し、私たちの弱さや不確実性を生命の源へ、創造する力へ、信頼という贈り物へと変えることさえます。神の光で私たちを照らすことによって、あなたは私たちが希望を生きるようにしてください。よい時も、そしてそうでない時も。

³ 感染症の世界的流行というこの試練の時にあって、教会は人類家族の友愛を促し続けることができます。数多くの提案の中から以下三つの提案があります。

- より人間らしい社会とするために、対立を和らげるよう、違いを携えて共に歩むことを学べるよう、私たちは互いに耳を傾けあう必要があります。教会は対話の道を模索し、すべての人に出会うよう出かけていくよう招かれています。キリスト教コミュニティと無関係に生きる方をも、対話に招く用意があるでしょうか。
- 非常に多くの移民や難民の到着に向き合い、祖国から追われた個人や家族を迎え入れることは、私たちの教会や共同体に活力を与えます。普段教会に行っていない人々も、このような迎え入れる活動に参加したいということはよくあります。近隣地域の人々とともにいくつもの国から難民を迎えてきたなかで、これは近年テゼで経験してきたことでもあります。
- 歓迎するコミュニティであることは、もっとも傷つきやすい人々に耳を傾けるということです。多くの場所で、教会はすべての人の人格を守るために前進することが求められています。教会内で増大した権力の構造が、心身と霊的な苦しみをもたらすことがあります。テゼにおいても、この件について、真実を求める働きを続けます。(www.taize.fr/protection)

聖書のテキスト

さらに黙想を深めるために

**マリアは次の言葉で歌いました。「神は権力ある者をその座から引き降ろし、低い者を高く上げられました。（中略）
富める者を何も持たせずに追い払いました。」（ルカ 1：46-56 を読みましょう）**

イエスの母であるマリアは、愛と優しさを根本的な変化への切実な希望と結びつけることができました。

**イエスはこう言われました。「弁護者、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる方が、あなたがたにすべてのことを
教え、私が話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」（ヨハネ 14：15-31 を読みましょう）**

イエスは私たちが独りきりにされませんでした。その死の前に、イエスは聖霊を通して、つねに共にいてくださることを弟子たちに確約なさいました。聖霊は私たちの内におられ、私たちに慰め、支え、そしてキリスト・イエスに付き従う者として日々生きるよう私たちに励まします。

天は喜べ。地は喜び躍れ。海とそこに満ちるものは、とどろけ。野とそこにあるものも皆、喜び勇め。森のすべての木々も、喜び歌え。主の前に。主は来られる。主は義によって世界を裁かれる。（詩編 96 を読みましょう）

多くの詩編は神を賛美するように招いています。神への賛美を歌うのは人間だけではありません。すべての被造物が讚美に加わっています。自然（被造物）を保護する必要があるのは、私たちが生きられるようにだけでなく、私たちがその一部であり、神の美しい計らいがすべての生命に及ぶためです。

2021 年の信頼の巡礼

地上における信頼の巡礼は続きます。今後が不確かな現在の状況にあって、オンラインでの取組みなど、新たな形態を模索しようとしているところです。ロックダウンの期間は、いろいろなコミュニケーション手段を通じて互いにコミュニオン（交わり）に留まることがいかに大切であるかが示されたと思います。

世界的な感染症の拡大が続いているなか、すべてのミーティングが予定どおりに行われるかどうかはまだ分かりませんが、2021 年には信頼の巡礼として以下の機会を設けたいと思っています。

- 年間を通してテゼでの週ごとのミーティング。（保健面で状況が許せば）
- テゼおよびブラザーたちが住む世界のさまざまな場所から発信するオンラインの国際大会。
- 2021 年 7 月 14 日～18 日、若いイスラム教徒とキリスト教徒が交流する週末の友好プログラム。
- 2021 年 8 月 22 日～29 日、18～35 歳を対象とした黙想の一週間。
- 2021 年 12 月 28 日～2022 年 1 月 1 日、トリノでのヨーロッパ大会。

そして、最後になりましたが、2022 年には 2021 年に予定されていた聖地への信頼の巡礼を行いたいと思っています。日程はまもなく発表されます。